

おてら

報恩講

常例十六日講

毎月十六日午後一時より

お経練習・法話会

写経会

毎月第二・四金曜日

午後一時より

浄土真宗のご開祖親鸞聖人の御祥月御命日に「宗祖のご苦勞を偲び感謝し、そのみ教えを味あわせていただき、明日の私の生きる糧とさせていただきます」法要です。

どうぞご参拝下さい。

十一月十六日(水)

午前十一時より

おときは中止致します



親鸞聖人(1173-1263)

み教え

位職 蒲原 霊英

毎号、親鸞聖人が説かれた浄土真宗のみ教えをなるべく分かりやすくお伝えしているつもりですが、抽象的で分かりづらいと思われる方もおられると思うので、私ごとですが、前号の冒頭で触れた娘がひき逃げ事故に遭った事を、具体例としてお伝えしてみたいと思います。

不思議な事もあるもので、実は事故とほぼ同時刻に、私は私で、参道のカイブキを刈ってアシナガバチに刺され、大変な目に遭ってしまいました。洗面所で応急処置をしている最中に警察から電話が有り、自分のことはもうどうでもいいから、とりあえず患部に保冷剤だけ当てて急いで現場に駆け付けました。結果、種類は違えども、二人とも全治二週間のケガでした。

この事を普通の感覚で考えると、「親子で大変な目に遭って大変だった」となるでしょう。「縁起が悪い」「お祓いをした方が良い」等と思われる方もいるかもしれませんが、しかし、私は、阿弥陀様は私に半分痛みを分けて、娘を護ってくださったのだと思えました。もっと正直なことを言うと、このところ娘は反抗期、私は更年期で、どちらもイライラして衝突することも多く、鬱陶しいと思うこともしばしばだったので、阿弥陀様は、私にも身体的な痛みを与えつつ、謂わば精神的にも痛みを与えるかのように、一瞬でも娘の死を私に突き付けて、娘の存在意義を私に問われたのだと思えました。言うまでもなく、自分の命よりも大切なのですが。

このように、事故とハチ刺されは、私にとっては、自分の親としての駄目さ加減や愚かさ、そして、娘の大切さを再認識させる為の、阿弥陀様のおはからいだったのだと捉えさせていただきました。ここまでしないと私は分からなかったのかもしれない。だからこそ、阿弥陀様は、少々手荒に見えるかもしれませんが、このような形で私に気付かせてくださったのだと思います。何とありがたいことか。南無阿弥陀仏。

これが浄土真宗のみ教えであり、お念仏を抛り所として生かさせていたたく者の考え方です。唯々辛いと愚痴ったり、何か霊的なもののせいだったり、占いや祈祷等に頼ったりするのではなく、起きた事象をそのまま阿弥陀様のおはからいとして受け止め、その意義を考えさせていただくのです。すると、感謝の気持ちさえ沸いてきます。それが南無阿弥陀仏なのです。合掌

永代経法要・中日法要

九月二十三日午前十一時から、秋彼岸中日法要をお勤め致しました。今年もお斎は取り止めましたが、皆でお勤めできることに感謝してお念仏申しました。『仏説観無量寿経』の読経後、住職からお彼岸の謂われ、お彼岸の過ごし方についてのご法話がありました。折角のご縁ですので、彼岸会や報恩講には、皆様も是非一緒ににお勤め致しますよう。

翌二十四日午後七時から、この一年間に永代経をご進納くださった方々をご招待し、浄光寺総永代経法要が営まれました。献灯・献花・献供物の後に読経が始まり、参拝者の方々が順次ご焼香され、御文章拝読の後は、住職よりご法話がありました。そして、法

要の最後には、本山御用達のお供物（亀屋陸奥「松風」）と記念品が下付されました。永代経は、相互扶助の精神に則り、永代に渡りお念仏のみ教えが伝わって、皆で仏様をご供養できるように、銘々ができる時にできる範囲のことであります。



西本願寺の七不思議 その5 太鼓楼



本願寺太鼓楼(国重要文化財)

境内の北東隅に建つ、ちよつと風変わりな様相を呈した重層の楼閣が太鼓楼です。鐘が吊された鐘楼のように、周囲に時刻を告げた、法要の合図をするための建物なのですが、寺院に太鼓楼があることは珍しいため、七不思議の一つに数えられるようです。しかし、祖母の実家、名塩御坊と呼ばれる西宮市名塩の教行寺（八代門主蓮如上人開基、八男蓮芸が初代住職）にも太鼓楼があり、近畿・東海・北陸地方の寺内町の中心となるような寺院に比較的多く存在しているようです。寺伝によると、江戸初期には境内



教行寺太鼓楼

の南東隅に太鼓を吊りした建物があったようで、現在の太鼓楼は、宝暦十年（一七六〇）の親鸞聖人五百回忌に際して建築されたようです。楼内には二つの太鼓があり、古い方は珍しく胴部が躑躅の木で作られたもので、奈良西大寺の遺品と言われています。この太鼓楼のことは、『菟芸泥赴』や『山州名跡志』にも見え、『京都坊目誌』（大正四年）には、「太鼓に新旧二個あり。旧物は金宝寺（京都市）より寄附せしものにて。胴は躑躅木にして裏面に朱書の銘あり。豊心丹の薬法及び梵字を記す。南都西大寺より伝へしものと云ふ」と記してあります。新撰組との関係はまた次回。

月忌納め法要
(おみがき)
十一月十六日
午後一時より

仏様（先祖様）に一年の感謝を
申し上げます

除夜会法要
十二月三十一日
午後十一時半より

除夜の鐘をついてみませんか
豚汁の振る舞いがあります